

県営沖山地区 農業用排水施設整備

(第1回変更)

(かんがい排水「排水対策特別」) 事業計画書

新潟県

目 次

第1章 目 的	1	2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地 の分散状況並びに専業別農家数	8
第2章 地域及び地積	1	3. 動力農機具及び主要家畜頭数	8
第1節 地 域	1	4. 主要作物作付状況	9
第2節 地 積	1	5. 農 業 の 動 向	10
第3章 現 況	2	第6節 地域環境の概況	10
第1節 気 象 及 び 海 象	2	1. 植物・動物等生態系の概況	10
1. 一 般 気 象	2	2. その他、地域環境の概況	10
2. 特 殊 気 象	2	第4章 一 般 計 画	11
3. 海 象	2	第1節 事業計画の要旨	11
第2節 土地状況	3	1. 要 旨	11
1. 地形、土壌及び侵食の程度	3	2. 事業別面積	11
2. 土地分類	4	第2節 営農計画及び土地利用計画	12
3. 土地利用の状況	4	1. 営農計画の概要	12
4. 土地所有の状況	4	2. 土地利用区分	12
第3節 水利状況	4	3. 作付方式	13
1. 用水状況	4	4. 生産計画	14
2. 排水状況	5	5. 労働改善計画	15
3. 河川状況	7	6. 級地別土地利用区分	16
第4節 道路概況	7	7. 土地配分計画	16
第5節 地域農業の概況	8	第3節 用水計画	16
1. 産業別就業人口	8		

第4節 排水計画	17	第5節 洪水調節施設	21
1. 計画基準雨量	17	第6節 干拓施設	21
2. 計画排水方式	17	第7節 農用地整備施設	21
3. 計画排水系統	17	第8節 老朽ため池改修施設	22
4. 計画排水量	19	第9節 発電施設	22
5. 排水対策	19	第6章 附帯工事計画	22
6. 湛水検討	20	第7章 工事の着手及び完了の予定時期	22
第5節 道路計画	20	第8章 環境との調和への配慮	23
第6節 農用地造成計画	20	第1節 保全対象種の設定	23
第7節 洪水調節計画	20	第2節 整備する環境条件と実施するエリア	23
第8節 干拓計画	20	第3節 配慮の計画内容	23
第9節 農用地整備計画	20	第9章 換地計画の概要	24
第10節 老朽ため池改修計画	20	第10章 事業費の総額及び内訳	24
第5章 主要工事計画	20	第11章 効用	25
第1節 用水施設	20	第12章 関連する事業	26
第2節 排水施設	21	第13章 現況・計画図面	26
1. 排水水門	21	計画一般図	27
2. 排水機	21		
3. 排水路	21		
4. その他排水施設	21		
第3節 道路及び索道	21		
第4節 農用地造成	21		

第 1 章 目 的

本地区は阿賀野市の北東部に位置し、団体営区画整理事業（昭和27～29年）で20aに整備された比較的平坦な耕地である。本排水路は同事業で造成され、災害復旧事業（昭和41年～昭和42年）により柵杭柵板で復旧された延長2.6km、受益130haの基幹排水路であり、一級河川塚田川に流下している。

現在、関係者の懸命な維持管理作業により水路を維持しているが、近年多発するゲリラ豪雨等により柵板の脱落、柵板背後土の陥没、柵杭の傾倒が進行し、維持管理では対応困難な状況である。さらに、断面不足と渠底が浅いことから、降雨時には度々湛水が生じ、常時には地下水排除が十分にできず、転作作物の取り組みが困難である。

そのため、本事業により排水路を改修し乾田化を図ることで、転作作物を取り入れた収益性の高い水田営農の確立を図る。

第 2 章 地域及び地積

第 1 節 地 域

(第 1 表)

事 業 名	地 域
農業用排水施設整備	阿賀野市

第 2 節 地 積

(平成29年5月現在) (第 2 表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	非農用地 (ha)	道水路敷 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名									
農業用排水施設整備	阿賀野市	126	4	—	—	—	—	—	130	
計		126	4	—	—	—	—	—	130	

第 3 章 現 況

第 1 節 気 象 及 び 海 象

1. 一 般 気 象 (位置 東経138° 46.3′ 北緯37° 38.5′ 標高2m) (第 3 表-1)

観測所名	新発田観測所	かんがい期	非かんがい期	計	備 考
観測期間	S元年～H28年	5月～9月	10月～4月	又は平均	
平均気温(℃)		21.9	7.2	13.4	昭和26年～平成28年
降水量	平均(mm)	800	1,348.0	2,148.0	昭和元年～平成28年
	基準年(mm)				
降水日数	平均(日)	67	145	212	昭和元年～平成28年
	基準年(日)				
根 雪 期 間		1月4日～3月4日		60日間	昭和26年～平成28年
無 霜 期 間		4月9日～11月22日		228日間	昭和26年～平成28年
最 多 風 向	東南東	最大風速 (風向)		30.7 m/s (WSW)	昭和36年9月16日(新潟地方気象台)

2. 特 殊 気 象 (第 3 表-2)

観測所名	新発田観測所	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
		数量	年月日	発 生 確 率	数量	年月日	発 生 確 率	数量	年月日	発 生 確 率	数量	年月日	発 生 確 率	数量	年月日	発 生 確 率	
観測期間	S元年～H28年																
最大日雨量(mm)	300.0	S42.8.28	1/2056	268.0	S19.11.21	1/811	154.0	S41.7.17	1/22	150.0	S46.6.27	1/19	148.0	S53.6.26	1/18		
最大時間雨量(mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
最大連続雨量(mm)	571.0	S12	1/145	531.0	S10	1/81	470.0	S8	1/34	455.0	S59	1/28	418.0	S41	1/17		
最大連続干天日数(日)	51	S18	1/96	50	S21	1/86	48	H6	1/69	43	S60	1/40	39	S23	1/25		

3. 海 象 該当なし

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

(1) 地形

本計画地域は、阿賀野川右岸に位置し、標高は1~7 mで北から南に約 1/1000 の傾斜をなしている。

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑・その他							受益地標高(m)		備考		
		傾斜 区分	1/1000	1/1000	1/100	1/20	1/11.5	計	3° 以下	3° 8°	8°~15°			15° 20°	20° 以上	計		最高	最低
			以下	1/100	1/20	1/11.5	以上				8°	10°	15°						
農業用排水 施設整備	面積 (ha)	-	126	-	-	-	126	-	-	4	-	-	-	-	4	7	1		
	比率 (%)	-	100	-	-	-	100	-	-	100	-	-	-	-	100				

(2) 土壌

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表										堆積 様式	母材	面積 (ha)	備考
	土壌断面													
	色	腐植	礫層	酸化 沈殿物	土性				泥炭層、黒泥層 及びグライ層					
					表土 一層	下層 二層	三層	四層						
D-33 強グライ土壌 粘土斑鉄型	黄褐	含む	-	含む	C L	C L	S L	S L	グライ層 0~100cm	水積	非固結堆積岩	130	現況	

(3) 侵食の程度

該当なし

2. 土地分類
該当なし

3. 土地利用の状況 (平成29年5月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕地							山林		採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
		水田	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	桑畑 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	用材木 (ha)	薪炭林 (ha)					
農業用排水施設整備	阿賀野市	126	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	130	
	計	126	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	130	

4. 土地所有の状況 (第4表-4)

事業名	所有別 区分	個人所有	土地改良区所有	市所有	国県有	計	備考
		面積 (ha)	130	-	-	-	130
農業用排水施設整備	関係戸数 (戸)	177	-	-	-	177	
	筆数 (筆)	925	-	-	-	925	
	権利関係	個人	-	-	-		

第3節 水利状況
1. 用水状況
(1) 用水系統
該当なし

2. 排水状況

(1) 排水系統 (現況排水系統模式図参照)

本地区の排水は1級河川塚田川から1級河川折居川に流下し、福島潟を経て1級河川新井郷川に排水されている。

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 m ³ /s	現況排水能力 m ³ /s	備考
			500ha以上		500ha～100ha		100ha以下		箇所	ha			
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
農業用排水施設整備	自然	排水路	-	-	1	161	-	-	1	161	5.606	3.383	
		水門	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計		-	-	1	161	-	-	1	161	5.606	3.383	

※現況排水能力は現況断面の等流計算

(イ) 改修を要する施設の一覧表

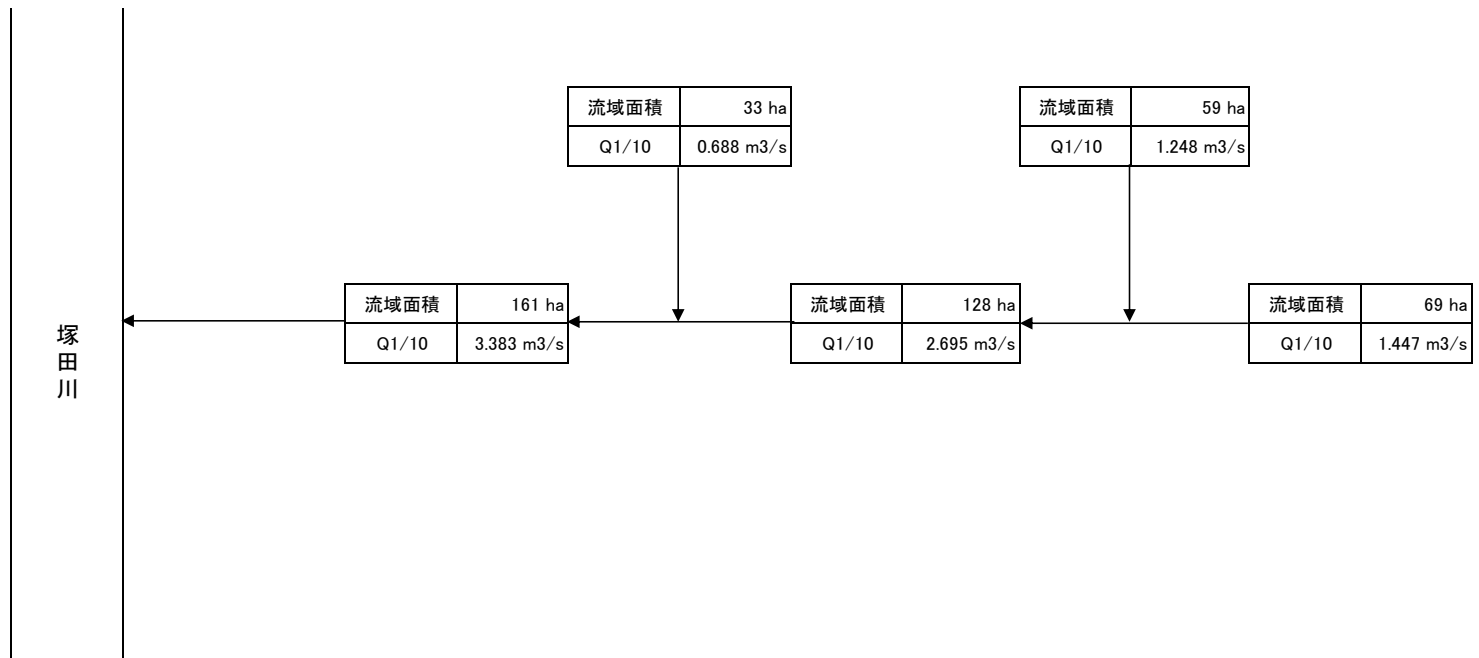
(第5表-5)

事業名	項目 施設名		施設名又は箇所数 (箇所)	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は更新年月日	改修を必要とする理由	備考
水門	-	-	-	-	-	-			
機械	排水機	-	-	-	-	-	-		
	水門及び排水機	-	-	-	-	-	-		
	排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-		
計		1	130	-	L= 2.6 km	-	-		

(3) 排水に関する被害状況

断面不足と浅い渠底により、洪水時に湛水が生じている。

冲山排水路現況排水系統模式圖(現況排水能力)



3. 河川状況

該当なし

第4節 道路概況

該当なし

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(H 27年10月 国勢調査) (第7表-1)

項目 市町村名	総数	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気ガス熱 供給水道業	運輸 通信業	卸売小売 業飲食店	金融 保険業	不動産	サービス 業	公務	その他	備考
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
阿賀野市	22,325	2,083	22	1	63	2,891	4,484	68	1,166	3,226	283	171	6,629	610	628	
計	22,325	2,083	22	1	63	2,891	4,484	68	1,166	3,226	283	171	6,629	610	628	
比率(%)	100.0	9.3	0.1	0.0	0.3	12.9	20.1	0.3	5.2	14.5	1.3	0.8	29.7	2.7	2.8	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(2015 農林業センサス) (第7表-2)

区分 市町村名	農家 総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数(戸)											1戸当たり平均農用地面積(ha)					耕地の分散状況		専業別農家数(戸)			
		例 外 規 程 の 適 用 を 受 け る も の	0.3 ~ 0.5 ha	0.5 ~ 1.0 ha	1.0 ~ 1.5 ha	1.5 ~ 2.0 ha	2.0 ~ 3.0 ha	3.0 ~ 5.0 ha	5.0 ~ 10.0 ha	10.0 ~ 20.0 ha	20.0 ha 以上	自 給 的 農 家	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	1 戸 当 り 地 数	団 地 当 り 面 積 (ha)	専 業	兼 業	
			第1種	第2種																			
阿賀野市	2,470	2	101	251	321	305	509	375	198	54	5	349	2.71	0.08	0.01	2.80	0.02	2.82	-	-	321	245	1,555
計	2,470	2	101	251	321	305	509	375	198	54	5	349	2.71	0.08	0.01	2.80	0.02	2.82	-	-	321	245	1,555
比率(%)	100	0.1	4.1	10.2	13.0	12.3	20.6	15.2	8.0	2.2	0.2	14.1	96.1	2.8	0.4	99.3	0.7	100.0	-	-	15.1	11.6	73.3

3. 動力農機具及び主要家畜数

(2015 農林業センサス) (第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具								主要家畜								備考
	耕うん機		トラクター		田植機		コンバイン		乳牛		役肉牛		豚		鶏		
	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	
阿賀野市	-	-	2,090	1,877	1,740	1,727	1,685	1,667	472	15	X	15	-	-	X	2	
計			2,090	1,877	1,740	1,727	1,685	1,667	472	15	X	15	-	-	X	2	
100戸当たり数量 (台・頭)	-		98.5		82.0		79.4		22.2		0.0		-		0.0		
利用戸数割合 (%)	-		88.5		81.4		78.6		0.7		0.7		-		0.1		

4. 主要作物作付状況

(H27～28年 新潟農林水産統計年報) (第7表-4)

市町村名		阿賀野市				計		平均	作付率 (%)	備考
総耕地面積 (ha)		6,830				6,830				
総本地面積 (ha)		6,668				6,668				
作物名	区分		作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)		
	田	表作	水稲	5,330	440			5,330	440	96
裏作										
小計		5,330						96		
畑	春夏作	大豆	216	101			216	101	4	
	秋冬作									
	小計		216						4	
樹園地										
	小計									
計		5,546				5,546		100		
市町村別延べ作付率 (%)		100				100				

5. 農業の動向

(2015 農林業センサス)

(第7表-5)

項目 区分	農 家		土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地域指定等	備 考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B		
変化の状況 (C年を100とする指数)	総農家数	95	84	耕地	100	98	水 稻	102	101	乳用牛	69	45	自動耕うん機	-	-	農業振興地域指定 H20.2.29 認可 H20.5.7 A : 平成27年 (2015) B : 平成22年 (2010) C : 平成 17年 (2005)
	専業農家数	100	141	田	100	99	イモ類	150	25	肉用牛	118	-	トラクター	85	76	
	第一種兼業農家数	68	35	畑	115	84	豆 類	185	133	豚	-	-	コンバイン	81	71	
	第二種兼業農家数	100	88	樹園地	79	93	野菜類	114	135	鶏	186	-	田植え機	84	75	
	農業従事者数	92	73													
変化の理由	農業情勢の変化		農業情勢の変化			食生活の変化			食生活の変化			機械の大型化				

第6節 地域環境の概況

1. 植物・動物等生態系の概況

本地区では自然環境資源である植物群落、貴重な動植物等が開発や整備、乱獲、人の立ち入り、伐採等による減少や、農薬使用、除草剤散布など農業生産活動の変化により生息地が減少している。また、阿賀野川水系の生き物や水辺の動植物が生息環境の悪化等により減少している。

本地区は、近傍に福島潟、笹神丘陵等の自然が広がる豊かな自然環境に恵まれた地域である。このため、自然との共生に可能な限り配慮しながら、高効率・高生産性農業の生産基盤を推進し、里地里山の生物多様性を保全することが求められている。

2. その他、地域環境の概況

本地区は阿賀野川の右岸に位置し、東に笹神丘陵、五頭連峰を望む低平地の水田地帯であり、丘陵地や田園地帯の豊かな自然は快適でうるおいのある生活環境を創っている。

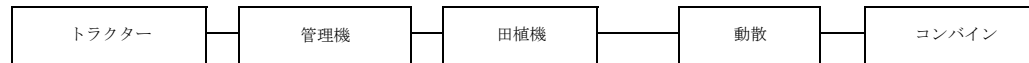
第 2 節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

a) 経営方式 水稲転作複合 水稲+大豆

b) 経営組織 農地の集団化を図り、大型機械の共同利用を進めると共に、土地利用権の集積に努め、農業経営の安定化を図る。

c) 作業体系（水稲） 耕起整地 → 基肥 → 植付 → 防除 → 収穫調整



2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分	土地利用区分										計 (ha)	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	桑園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)		
農業用排水施設整備	現況	126	4	-	-	-	-	130	-	-	-	130	
	計画	126	4	-	-	-	-	130	-	-	-	130	
計	現況	126	4	-	-	-	-	130	-	-	-	130	
	計画	126	4	-	-	-	-	130	-	-	-	130	

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量 (hr/10a)				備 考	
				区 分	現 況	計 画	増 減		
農業用排水施設整備	水 田	水 稻	97	人 力	526.1	378.5	△ 147.6	現況：湿田 中区画 計画：乾田 中区画	
				機 械 力	219.2	162.4	△ 56.8		
		大 豆	19.3	人 力	296.0	242.1	△ 53.9	現況：湿田 中区画 計画：乾田 中区画	
				機 械 力	150.0	122.0	△ 28.0		
	畑				人 力				
					機 械 力				
				人 力					
				機 械 力					
	計		116.3						
	合 計		116.3						

※ 農地の集団化を図り大型機械の共同利用を進めると共に土地利用権の集積に努め、農業経営の安定化を図る。

6. 級地別土地利用区分
該当なし

7. 土地配分計画
該当なし

第3節 用水計画

該当なし

第 4 節 排 水 計 画

1. 計画基準雨量

・基準雨量 = 最大日雨量130.7 mm (1/10確率) 新発田観測所

2. 計画排水方式

a) 単位排水量の決定

区 分	算定方法	基準雨量	流出率	(1/年確率) 別	雨量強度	算 出 基 準	単 位 排 水 量
農業用排水 施設整備	合理式	131 mm/日	40 %	1/10 年確率	31 mm/hr	角屋・福島式	0.035 m ³ /s/ha

b) 河川洪水位の決定

該当なし

c) 計画洪水位の決定

塚田川合流地点 WL=2.039m

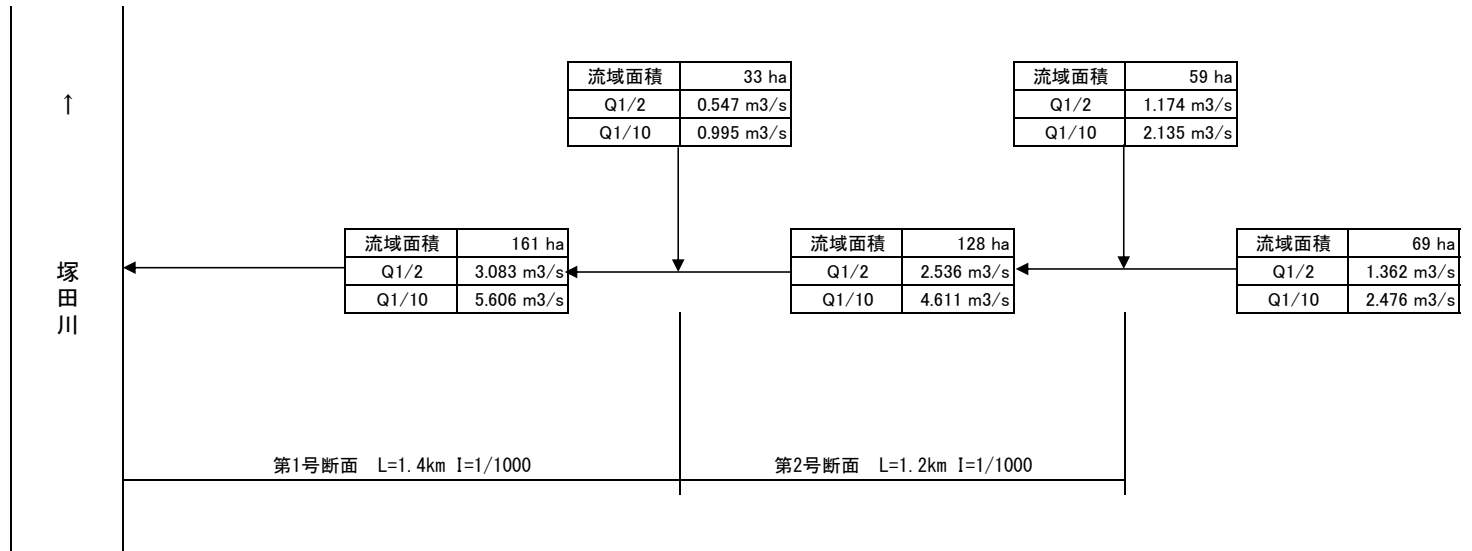
d) 地下排水計画に対する計画諸元の決定

該当なし

3. 計画排水系統

計画排水系統図のとおり

冲山排水路排水系統模式图



4. 計画排水量

(表11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)	流域面積 (km ²)		基準 雨量 (mm)	降雨による 直接単位流出 量 (m ³ /s/km ²)		基底流 出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備 考
	事業名	山地	平地		山地	平地	山地	平地	山地	平地		山地	平地	
	農業用排水 施設整備									自然排水	機械排水			
沖山排水路	161	-	1.61	130.7	-	3.49	-	-	-	5.606	-	-	3.49	

5. 排水対策

- (1) 排水水門
該当なし
- (2) 排水機
該当なし
- (3) 計画排水路

(表11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)	計画排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構 造	排 水 本 川			備 考
						名 称	計画排水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
沖山排水路	1.61	130	5.606	2.6	排水フリューム	折居川	91	2.04	塚田川に 接続し折居川 へ流下

(4) その他
該当なし

6. 湛水検討
該当なし

第5節 道路計画
該当なし

第6節 農用地造成計画
該当なし

第7節 洪水調節計画
該当なし

第8節 干拓計画
該当なし

第9節 農用地整備計画
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画
該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設
該当なし

第 2 節 排水施設

1. 排水水門
該当なし
2. 排水機
該当なし
3. 排水路

(第 18 表-3)

水路名	受益面積 (ha)	排水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物(箇所)	備考
	事業名		開渠	暗渠	計				
	農業用排水施設整備								
沖山排水路	130	5.606	2.5	0.1	2.6	排水フリューム ボックスカルバート	1/1000	-	

4. その他排水施設
該当なし

第 3 節 道路及び索道
該当なし

第 4 節 農用地造成
該当なし

第 5 節 洪水調節施設
該当なし

第 6 節 干拓施設
該当なし

第 7 節 農用地整備施設
該当なし

第 8 節 老朽ため池改修施設
該当なし

第 9 節 発電施設
該当なし

第 6 章 附帯工事計画
該当なし

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

○ 工期	着手	平成 30年度
	完了予定	令和 11年度
	完了予定	平成 35年度

第 8 章 環境との調和への配慮

第 1 節 保全対象種の設定

本計画地区の保全対象種は平成28年7月19日～25日に実施した「生き物調査」結果をもとに、ヤリタナゴとスナヤツメとする。

ヤリタナゴ：流れが緩やかな河川や水路等を生活空間とし、雑食性で小形水生昆虫や付着藻類を餌としている。3～8月にドブガイなどに産卵する。比較的環境の悪化に強い。第4次レッドリストでは準絶滅危惧種(NT)に指定されている。

当該種を保全対象種とすることで、農業との共生の象徴として揚げ、保護活動に取組み、地域の環境保護活動のよりどころとしていく。

スナヤツメ：水の澄んだ流れの緩やかな浅い清流に生息し、4年目の秋に変態して成魚になるが、変態後は消化管が退化してしまい、餌を取らずに春まで過ごす。春から初夏にかけて産卵し、一生を終える。

第4次レッドリストでは準絶滅危惧種Ⅱ類に、「レッドデータブックにいがた」では準絶滅危惧種に指定されている。また、阿賀野市農村環境計画の注目すべき動物として挙げられており、当該種を保全対象種とすることで、農業との共生の象徴として揚げ、保護活動に取組み、地域の環境保護活動のよりどころとしていく。

第 2 節 整備する環境条件と実施するエリア

本計画地区は、「阿賀野市農村環境計画」では「定住環境創造エリア」に属しており、当該エリアは市街地や各集落を包み込む形で広がる農地が広大な田園景観を形成しており、その景観の保全に努めるとともに優良農地の確保を図ることとなっており市全域に点在する集落地域は、自然環境に配慮しながら生活基盤施設の整備を進めることとなっている。

豊かな自然は快適でうるおいのある生活環境や美しい町づくりに欠かせない重要な役割を担っており、河川や排水路などの水質の保全は生態系の保全においても極めて重要であり自然環境の保全と美しい景観形成を図ることが要求されている。

更に、治水・利水への期待と共に魚類等の生息環境の保全や人々が自然とふれあえる、うるおいのある水辺空間として利用する等、河川環境に対する多様な要望に適切に対処することが重要な課題となっており排水路改修においては豊かな自然環境と美しい自然景観を保全創出するよう求められている。このため、自然との共生に可能な限り配慮しながら、高効率・高生産性農業の生産基盤を推進し、地域の生物多様性の保全を目標とする。

第 3 節 配慮の計画内容

本地域では、保全対象種（ヤリタナゴ、スナヤツメ）以外にも多様な生物の生息が生き物調査により確認されている。本計画では水路の一部を所々底の開いた底版として泥が溜まるような構造とすることで、これらの生物の生息環境を確保する。

また、工事期間中の掘削工事等による泥水の流出等に十分配慮する。

第 9 章 換地計画の概要

該当なし

第 10 章 事業費の総額及び内訳

(第 26 表)

(単位：千円)

区分		事業別	かんがい排水事業	合計	備 考
主要工事			1,744,800 876,400	1,744,800 876,400	内地方事務費 20,000 41,700 内工事雑費 31,000 20,400
付帯工事					
関連事業	国営かんがい排水事業 阿賀野川右岸地区		33,624,000	33,624,000	
	経営体育成基盤整備事業 発久地区		2,033,300 1,288,300	2,033,300 1,288,300	内地方事務費 95,667 内工事雑費 25,300 内地方事務費 61,300 内工事雑費 24,500

第 1 1 章 効 用

事業名	項目 区分	年総効果(便益)額(千円)	年増加農業所得額(千円)	備 考	
		農 業 用 用 排 水 施 設 整 備	作物生産効果	8,232 10,720	(-) 6,649
	営農経費節減効果	20,976 19,651	(-) 23,900	総費用(現在価値化) =	797,179 千円
	維持管理費節減効果	▲ 1,962 ▲ 309	460 364	総便益(現在価値化) =	3,208,449 千円
	災害防止効果 (農業)	2,173 371	-	総便益(現在価値化) =	1,032,007 千円
	災害防止効果 (一般資産)	76,999 7,431	-	総費用総便益比 =	$\frac{3,208,449}{2,388,187} = 1.34$
	災害防止効果 (公共資産)	(-) 15,625	-	総費用総便益比 =	$\frac{1,032,007}{797,179} = 1.29$
	国産農産物安定供給 効果	1,504 1,454	-	総所得償還率 =	$\frac{1,343}{37,356} \times 100$
	計	107,922 千円 54,943	460 千円 30,913	総所得償還率 =	$\frac{3.6}{31,984} \times 100$
				総所得償還率 =	$\frac{3,389}{10.6} \%$

第 12 章 関連する事業

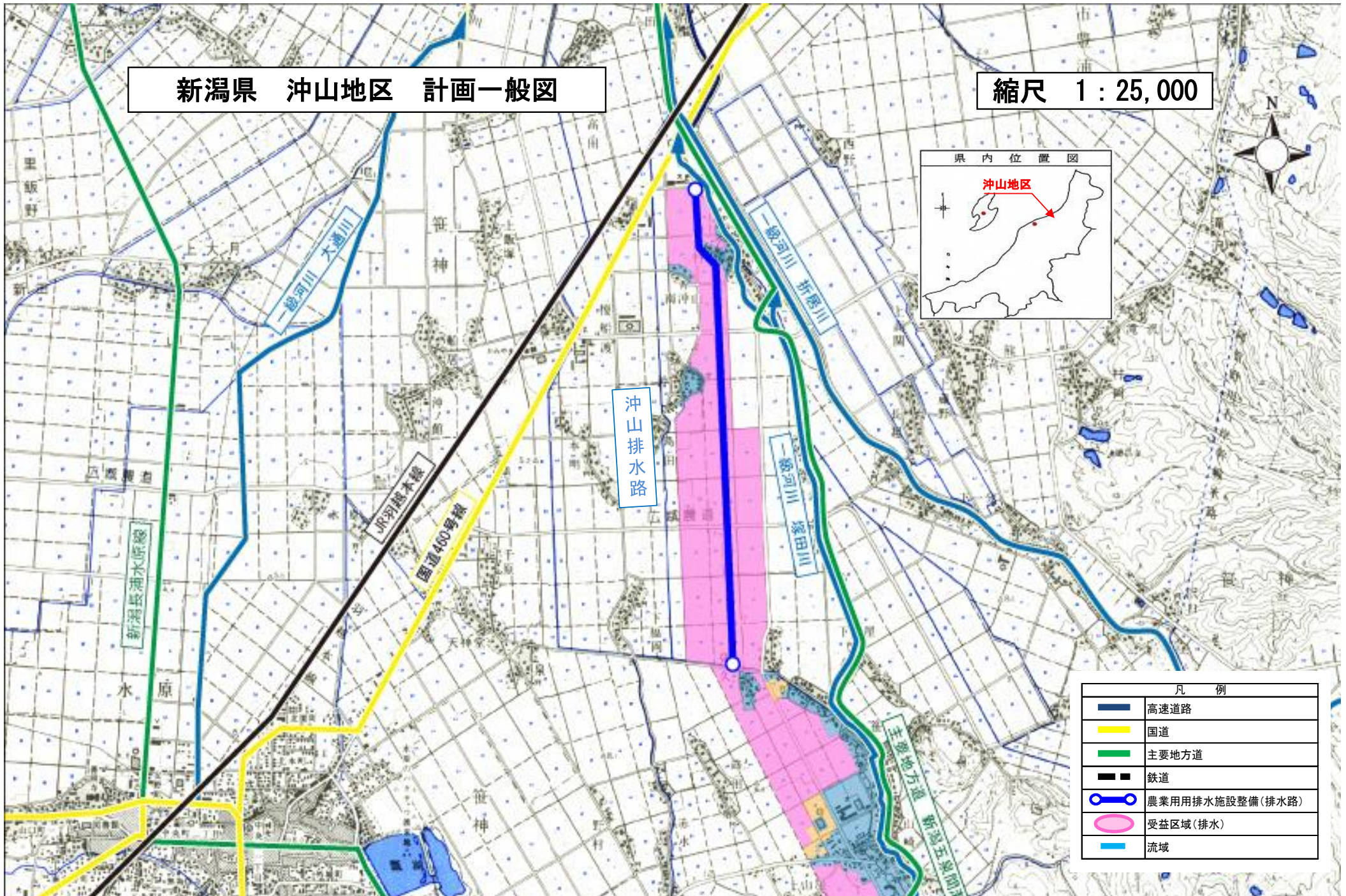
区画整理（経営体育成基盤整備「一般型」）事業 県営発久地区 （ R1～予定 ）

第 13 章 現況・計画図面

別途 添付図面参照

新潟県 沖山地区 計画一般図

縮尺 1 : 25,000



凡 例	
	高速道路
	国道
	主要地方道
	鉄道
	農業用排水施設整備(排水路)
	受益区域(排水)
	流域